

2022年(令和4年)
5月11日 水曜日
第1881号

京都自動車新聞



各地区整備協が総会開く
エアバッグ車検停止 対象を拡大
京都日産 全社員大会で表彰式
J-U京都が理事会で総会議案策定
◀京ト協 初の交安出前授業

4
5
6
7
2

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町 51-5 (京都自動車会館内) 電話 (075) 672-0552 ファクス (075) 682-0205 メール access@kyotojidoshanp.jp https://kyotojidoshanp.jp

情報を深度化、業界支援強化

京運支局 藤原支局長 従来の発想変えイメージアップ狙う

4月1日で着任2年目を迎えた京都運輸支局の藤原幸嗣支局長は、今期の取り組み方針に業界のイメージアップを掲げる。1年目は情報収集に力を置き、各業界の課題や問題点を抽出、それに対処することで課題の改善を促してきた。コロナ禍で定着したニューノーマル(新しい常態)の生活様式をはじめ、業界を取り巻く環境が大きく変わる中、コロナ禍の収束による経済活動活性化を見据え、情報を深度化、業界のサポートを一層強化する考えだ。

1年目を振り返って

どのように感じたか。1期目の方針に定めた情報収集は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けて発令された緊急事態宣言や、まん延防止等重点措置の影響で各業界に対するヒアリング機会が少なくなり、思う

ように進まなかった。懇話しても極力短時間で済ませるなど相手の健康面に気を遣いながらのヒアリングだったため、深い話をするまでは至っていない。今期はこれまで同様相手に配慮しながらも更に一歩踏み込んだ話し合いをしていきたい。

標準的な運賃收受へ

荷主団体に協力要請

一流が戻れば物流も動き出す。一方で人材不足に伴う輸送力減が危惧される。ヒアリングを通じて各業界からさまざまな意見を聞くことができたが、各業界とも共通して人材不足が共通の悩みだった。各業界、各企業ともそれぞれ対策を講じ、人材の取り込みを強化しているもの、どうしても同一業界内での流動が主で、業界外からの人材確保が進んでいないと感じる。

トラック運送業界を例に挙げると、ドライバー未経験者が新たに門をた

たくケースはそう多くはない。業界では現在、ドライバーの労働条件改善や働き方改革の一環として、標準的な運賃制度に基づき運賃交渉に取り組んでいるが、現場から思うように進まないという声も届いている。我々としても実運送会社と交渉しやすい環境を整えるため、3月に京都府トラック協会の荒木律也会長と京都商工会議所(塚本能交会頭)、京都経営者協会(小畑英



京ト協の荒木会長と京都商議所など訪問、窮状を説明

説明し、運賃交渉のテーブルにつくよう会員企業にお願いするよう強く依頼した。荷物があっても「運べない」という未来を避けるためにも、今行動を起こし、運賃水準改善につなげてほしい。ヒアリングテーマに業界外から見た業界人材確保の難しさの一つに、イメージの問題があるのではないだろうか。

再びトラック運送業界の例になるが、どうしても長時間労働や肉体労働、低い給与水準の問題が取り上げられ、どうしても敬遠されがちだ。一方でドライバーの魅力として経済や生活を支える

耳を傾けることで、新しいキツキが得られるのではないかと期待する。一方、業界内では、青年経営者組織に加え新たに女性経営者組織のメンバーとの意見交換に力を入れた。

20年度以降、京ト協青年部会(柳和秀部会長)の正副部会長と意見を交わすとともに、個別に企業訪問し、一線活躍する若手経営者の生の声を聞くことができ、大変参考になった。その時に得られた意見を基に、昨年末から今年にかけてトラック輸送における取引環境・労働時間改善京都府地方協議会(久本憲夫座長、京都橋大学教授)として、書面化実現に向けてアンケートを実施。現



京ト協青年部会メンバーと意見を交わし、生の声聞く

在、結果を分析中だが、まとまり次第公表し、フィードバックしたい。これまでの発想とは違う方法で業界をアピールし、「厳しい業界」ではなく「楽みのある業界」という印象が広められるよう考えてみたい。そのためにも、これまで以上

に多様な視点からの意見を集め、情報収集の深度化を図るつもりだ。最後に一言。各業界の皆さんには、エッセンシャル事業者としてコロナ禍で厳しい中でも京都府内の産業や市民生活を支えてもらっており感謝している。イメージアップは一足飛びに行えるものではないが、地道な活動を続け、一般社会に理解を求めていく。コロナ禍が収束し日常生活を取り戻した後、皆さんの事業が混乱・停滞しないよう今から行動し、問題解決のお手伝いをしていく。

*「追跡データベース」
一日銀京都支店編
休みました。



21年11月、報道関係者を通じて一般市民に安全性訴える

府や京都市と連携 安全の見える化実施

—コロナ禍の影響で京都の観光業界は2021年も厳しい局面だった。京都の観光業界と言えば修学旅行。日本全国から訪れる大勢の学生の思い出づくりをサポートするのが貸切バスやタクシーといった公共交通機関だ。緊急事態宣言や、まん延防止が制限される中、公共交通機関の感染防止対策を知ってもらおうと昨年11月、バスとタクシー業界の安心・安全を見える化する催しを京都府や京都市と協力し報道関係者に披露、一般市民に安全性を訴えた。

今年3月21日でまん防が解除され、少しずつ京都にも観光客が戻りつつある。これから春の行楽シーズンが本格化するが、安心して公共交通機関を利用し、京都の春を楽しんでほしい。



2期目の方針を語る藤原支局長

若年層との意見交換 新たなキツキを期待

具体的な考えは。若年層の就職に影響のある保護者や消費者団体、高校生や大学生といった業界に入ってくれる可能性のある若年層との意見交換を検討している。運輸業界に長年携わっており、どうしても業界の常識にとらわれがちだが、固定概念無しで

レンタカー・代車のことなら なんでもご相談ください

トヨタレンタリース京都 予約センター

(075) 315-7320 年中無休

ブロードリーフの新しいクラウドはじまる

らくらく導入、かんたん操作。『日常業務の効率化』をサポート!

- PC、タブレット、スマホ対応
- 必要な機能を自由に組み合わせ
- 月額契約のサブスク対応

顧客・車両・履歴管理 伝票作成業務 顧客アプローチ業務

株式会社ブロードリーフ www.broadleaf.co.jp
〒612-8418 京都府京都市伏見区竹田向代町51-5 京都自動車会館5F
TEL 075-661-1050 FAX 075-661-1051